

民児協だより



—広げよう 地域に根ざした 思いやり—



まなざし

愛川町民児協では、地域住民の皆さんに私たちの活動を知っていただくことを目的に、年間を通して、地域の行事に積極的に参加し、PRに努めています。

主な自主活動では、5月に「民生委員・児童委員の日」活動強化週間の行事を開催、11月に民児協の広報誌の創刊号「ぬくもり」を発行、委員活動の基本や対応をまとめるマニュアル委員会等、新たな活動を立ち上げ取り組んでいます。

また、毎年10月に開催される「ふるさとまつり」の「福祉の広場」では、活動紹介パネルの展示、ちびっ子広場を開催し、来場者にとっても好評でした。

これからも町のイベント等でのPR活動に工夫を凝らし、住民の皆さんの力となるよう、私たち64人は、力を結集し、愛される民生委員児童委員を目指してまいります。

(愛川町民生委員児童委員協議会)

◆特集 平成27年度受章(賞)者紹介 おめでとうございます

- 活動研究レポート 全委員の声に耳を傾け、委員とともに歩む(大磯町民児協)
- 研修報告 ●NEWS&インフォメーション ●通信員だより

平成27年度受章(賞)者紹介



次の方々が各種表彰を受章(賞)されました。おめでとうございます。

◇春の叙勲(4月29日付)

瑞宝単光章

〔藤沢市・元〕山口絢子

◇春の褒章(4月29日付)

藍綬褒章

〔秦野市〕熊澤道子

〔横須賀市・元〕加藤佐榮子

◇秋の褒章(11月3日付)

藍綬褒章

〔座間市〕青木友子

〔厚木市・元〕小宮和子

◇厚生労働大臣表彰(11月20日付)

〔民生委員・児童委員功労者〕

〔横須賀市〕佐野美智子 山口忠夫

〔鎌倉市〕石井直樹

〔藤沢市〕三浦絹子

〔茅ヶ崎市〕木下操

〔大和市〕小菅菊美

◇全国社会福祉協議会会長表彰(11月20日付)

〔民生委員・児童委員功労者〕

〔横須賀市〕井澤興

〔平塚市〕河間洋子

〔鎌倉市〕白井智子

〔藤沢市〕三誓忠

◇全国民生委員児童委員連合会会長表彰(10月15日付)

〔優良民生委員児童委員協議会表彰〕

横須賀市民生委員児童委員協議会

山北町民生委員児童委員協議会

〔永年勤続民生委員・児童委員功労表彰〕

〔藤沢市〕浅野朝子

〔永年勤続民生委員・児童委員表彰〕

〔横須賀市〕小池陽子 志田良子

〔平塚市〕河間洋子

〔鎌倉市〕大木君江

〔藤沢市〕石田マユミ

正田恵美子 杉測美有子

古川京子

〔逗子市〕川上和子 日野乃美子

〔大和市〕岡田博江 柿沼信子

〔綾瀬市〕松本信之

〔開成町〕辻村貴子

◇県民功労者表彰(7月6日付)

〔社会福祉分野〕

〔藤沢市〕國弘信子

〔小田原市〕橋本尚信

◇神奈川県知事表彰(10月15日付)

〔在職15年民生委員・児童委員永年勤続表彰〕

〔平塚市〕小泉恵子 金剛昭枝

古正悦子

〔鎌倉市〕秋林邦子 大塚真理子

〔三浦市〕橋本キヨ子

鈴木みどり

〔藤沢市〕五十嵐弘枝 高畑元子

石渡ミエ子

〔小田原市〕小西道子 日下部透

〔厚木市〕田中祐子

〔大和市〕小倉悦

〔綾瀬市〕栗原芳子 安藤要子

◇神奈川県社会福祉協議会会長感謝(10月15日付)

〔永年勤続功労者(勤続20年以上)〕

〔横須賀市〕森美知子

〔大和市〕瀬沼澄江

◇神奈川県社会福祉協議会会長表彰(10月15日付)

〔永年勤続功労者(勤続10年以上)〕

〔横須賀市〕浅沼文子 石川敏弘

石原敦子 石渡由美子

伊藤富美 井上厚子

今福喜美子 岩堀寿波

江尻淳子 江藤智子

江原千代子 江原禮子

大島尚子 大谷純代

大盛軍二 小野田純子

柏木三千子 片岡芳行

片木多加代 川島洋子

河邊征之 川村恭司 北村隆

小池久子 雑賀靖子 西郷悦子

笹生勝美 島崎貴美子

志村美代子 下田千津子

進藤マツエ 鈴木敏子

関野清美 曾我由美子

鷹野克彦 高橋恵子 高橋貴美

武井弘子 竹村千津子

玉田きみ子 手塚久美子

長岡隆子 中川邦子 中島良夫

中野千鶴 中村孝 中山静子

西山敏子 野地富士子

原田幸子 樋口久美子

松尾憲治 松上スミ江

松本喜美子 水口國昭 三橋隆

宮川理恵 村山俊也 山岸静子

山崎節子 山田初江

〔平塚市〕相みさ子 綾部日寿

井上敦子 大谷洋子 大塚英子

大野トシ子 大村満裕

加藤健太郎 川崎秀

郷原イネ子 笹尾佳夫

茂田秀子 志野幸子 島村明美

瀬沼俊男 高橋國明 立澤厚子

内藤和子 橋本勢作 持田修
〔鎌倉市〕 助依子 足立祐子

伊藤信子 稲田安子 岩壁秀明
岩田いさ子 太田由美子

岡村千恵子 梶田薺子

河野美志 西條方子 齋藤彰

菅井克男 杉山糸江 淡中京子

中田圭一 西浦チエ子

平井潤子 藤井和子 藤島節子

水上弘子 緑川桂子

安田紀代子 八十川一恵

若林育子 渡邊夕雅

〔藤沢市〕 浅野貴子 安藤和子

伊井之博 井尾富美子

板原直枝 市川みどり

井上美恵子 岩淵富美代

大倉敏子 太田淳子 大嵩忠義

落合英只 落合優 落合八重子

川口道子 河野千恵子

川村久子 北村嘉孝

日下部和美 黒川節

小泉佐代子 児玉文卿

小林教子 齋藤勇 齊藤はるみ

坂本明日香 櫻井恵子

佐藤真知子 重田幸雄 品田雅

鈴木智世 砂川晴代 鷹崎律子

田中桂子 谷川かよ子

鳥羽登志子 名倉順子

野村京子 榛葉昇 長谷川政四

藤澤智子 藤原紀 堀沙智子

水野益明 村上弘子

村上庸介 保田千鶴子

山田鈴野 由井清子

吉田ノリ江

〔小田原市〕 相原久花 五十嵐博

磯崎一子 磯崎伸子

岩田隆一 小野利枝

小野美代子 加藤和子

木村晃一 坂田逸司 鈴木修一

須山晴夫 長井和子 中島秀子

永田久美子 野島千津子

松嶋克夫 松本公子

矢島ケイ子 山口正隆

山田昭子 山本由美子

〔茅ヶ崎市〕 太田亜古

小笠原幸四郎 小林勝

齊藤幸雄 酒井和子

佐々木早苗 鈴木志津江

千海和子 高川滂子 中尾圭子

中村利榮子 野澤陽子

橋本恵子 古郡祐子 古屋妙子

水口靖 森井香代子 山上壽子

山口眞毅夫 渡邊文子

〔逗子市〕 相澤あや子

青柳美津子 大黒ハルミ

大竹恵子 木下京子 嶋村敬子

芹澤ふさ江 高橋三由実

矢島明 山上寿美

〔三浦市〕 稲田紀美子 川崎節子

栗原登美子 鈴木喜孝

高木厚子 菱沼知代 星野早苗

宮川壽美代

〔秦野市〕 榎本恵美子

小幡かほる 金子加代子

熊澤嘉孝 高橋幸江 原香代子

原田敏之 宮村菊江

守屋ゆき子 柳川サヨ子

山崎文子 横山信子

〔厚木市〕 安藤弘子 井上永子

太田紀子 小澤建雄

鎌田百合子 河合美津子

小林晴雄 笹沼朋子 志村忠臣

関口正昭 高橋純子 高橋範繁

高橋はる子 高橋正枝

根本靖子 平本俊弘 福田三郎

森住勝夫 山田芳子 鎗田みち

〔大和市〕 井上定男 遠藤卯久

大澤洋子 大山和子 加藤幸子

金子直勝 北村美枝子

熊山眞由美 佐藤恵子

佐藤ユリ子 柴崎忠男 菅原務

関水直行 武山孝子

館合みち子 田沼愛子

田平恭子 橋詰榮子 原田悦子

藤沼重雄 三浦良子

壬生幸百合 虫賀美咲子

森トシ子 森尻カヨ子

山澤園江 渡邊隆敏

〔伊勢原市〕 石塚京子 牛口武子

成田正代 守屋シゲ子

〔海老名市〕 内海久 川口英子

杉原美津江 田澤悠子

野木珠子 平井敦子 前田洋子

間宮久子 水本晶子 和田敏男

〔座間市〕 阿部正信 池田たか子

大矢富美子 岡野伸江

越智慶子 加藤弘子 河野由美

菅野賀津子 木口一代

草薙菊江 佐藤雅彦

清水紀代美 末永八百子

鈴木いづみ 関口征子

曾根彰子 手塚紀子 中村由美

野崎ヨシエ 原田良江

平野せつ子 丸井壽子

宮田康子 山口静子 和田泰弘

〔南足柄市〕 安藤則夫 細見福史

〔綾瀬市〕 奥田一清 越智洋之

川野保代 橘川美智子

幸丸和子 小宮昌典 今野越子

佐久間由紀子 杉本美奈子

高野悦子 戸田輝國

花井さつ子 比留川美智子

比留川祥隆 廣田博美

峰岸恵美子

〔愛川町〕 木村光雄 引木和子

〔清川村〕 山口理恵

〔葉山町〕 上野英樹 梶山悦子

中川進一 沼田東治

〔寒川町〕 吉川京子 木村章恵

佐藤信江

〔二宮町〕 野谷美恵子 東節子

平田隆彦

〔大井町〕 植松伸二 山本香代子

〔山北町〕 瀬戸尚子

〔箱根町〕 石村かほる

折橋みどり 勝俣英美子

平塚めぐみ

〔真鶴町〕 朝倉のり子

〔湯河原町〕 高杉正枝 高橋清

露木初子 袴田百合子

橋本經子 橋本佳宏

〔平塚市・元〕 高橋浩貴

〔藤沢市・元〕 井上實

関野高千代

〔敬称略、五十音順で表記。また、所属等は受賞当時のもの。〕

市町村民児協発
活動研究レポート
No.36

全委員の声に耳を傾け、委員とともに歩む 大磯町民生委員児童委員協議会

前回の斉改選で大磯町民児協は、6割の新任民生委員児童委員(以下「委員」)を迎えました。新任委員を迎えることを前向きに捉え、新たな体制を整えていくためにどのような視点で大切に取り組まれてきたかについて、会長の安藤憲和さんにお話をうかがいました。

大磯町民児協(以下「民児協」)の委員は主任児童委員2名を含め54名で、高齢者部会、児童部会、障がい者部会、地域福祉部会と4つの部会を設けています。

●新任委員の負担を減らす工夫

県下全体の委員交替の平均が35%の中で、60%の交替があった改選後に、初めて会長となった安藤会長は、「なぜ、やめてしまったのか」と当初は悩みましたが、「ピンチをチャンスに」と捉え、新任委員の負担を払拭するための取り組みの準備から始めました。

準備から1年を経て、新任委員が2年目となる12月に「新任委員意見交換会」を新たに開催しました。「委員の役割はどこまでなのか」等活動する上での悩みや不満等を自由に語り合い、先輩委員から助言を受けたりと何気ないことでも話し合える関係を築くことにつながりました。

●委員の声を原動力に、わが町の事例集・活動記録のマニュアルを作成

このような場をつくることで、「具体的な活動内容が分かる身近な事例を知りたい」「活動記録でどの項目に記せばよいか分かりづらい」といった声が上がりました。

取 扱 注 意

地域で暮らしやすいまちを実現していくために
民生委員・児童委員
活動事例集

平成27年4月
大磯町民生委員児童委員協議会

委員の声をもとに作成した、活動記録マニュアルの表の一部を表示し、表の項目を一部拡大。

2歳児全戸訪問事業(平成27年4月より)
にここクラブ以外のポスターの掲示と撤収
町歌老祝金贈呈
年末助け合い募金 配分金の配布
保育園・幼稚園・小学校・中学校などの行事
登下校児童の見守り(関係機関から依頼の場合)
委嘱状伝達式
横溝まつりなど
関係機関・団体などの主催行事や事業を、地域の住民に知らせる

3.地域福祉活動・自主活動

登下校児童の見守り
地区の行事の欠の連絡や、地区の行事の手作り弁当などのお届け
各種ボランティア活動(大磯福祉ショップ、乳幼児見守り保育、おあしなど)
にここクラブのポスターの掲示と撤収
にここクラブに参加

「具体的な活動内容が分かる身近な事例を知りたい」「活動記録でどの項目に記せばよいか分かりづらい」といった声が上がりました。

そこで、委員の声を次の取り組みに活かしました。

一つ目は、個別支援における大磯町版の事例集作成です。ここでポイントとなったのは、できるだけ委員に負担をかけないようにと、定期的に実施している事例検討の資料を活用したことです。

二つ目は、活動記録の書き方マニュアルの作成です。特に、町独自の事業名称で実施している「その他の活動件数」「訪問回数」「連絡調整回数」の中どの項目に記入したらよいかすぐには分からず、不安を抱く委員もいます。そこで、それぞれの事業に対して、どこに記入したらよいか表示するようにしました。

●全委員の声を聴くためのアンケート

さらに、民児協では、新規事業実施を検討するときには、賛否についてアンケートを取ります。反対意見やマイナスの声に、二の足を踏むこともあります。賛成が多数の場合は、その結果を追い風に事業を進めます。ただし、反対意見も大切に、各委員がやる意義を感じられるように、事業実施後のアンケートも欠かさず取り、その結果を次の事業にどのように反映するか検討しています。

●役割が果たされているか見直す

継続的に事業を進めていると、その事業をなぜ委員が担っているのかという目的を見失う場合もあります。そこで、民児協では、「本来の役割に専念するためには何が必要か」について検討を重ね、平成13年度から始まった乳幼児と親子が気軽にのんびり集える場「にここクラブ」を平成27年度で、終了する決断をしました。これは、町の協力も得ながら、他機関・団体で同様の事業が広がってきたという社会の動向を見据えての見直しです。この見直しによ

……………取材をとおして……………

前向きに取り組む勇気を持つこと 瀬戸委員長

「民児協は、皆で楽しんで、前向きに運営することが大切!」と、安藤会長は熱く語って下さいました。困っていること、事業を見直すこと等を、皆が話せる環境を造ること、アンケートを取り、60%以上の賛成があったら、新事業を始めること。事業をやめたいときは、勇気をもってやめ、次の事業を考えること。会長自身、皆と一緒に率先し、実務の活動をされていらっしゃることも、感銘を受けました。これからの委員活動に「夢を持ち、前を向く勇気」をいただけた嬉しい取材でした。

気軽に話せる意見交換の場づくりから 菅谷委員

今年は、委員改選の年です。行政とのパイプ役である委員は、3年間で得た知識を持って活動していますが、その反面、常に不安や負担を感じています。安藤会長が事業に対してアンケートを実施し、気軽に発言できる場所を設ける話には共感しました。一人でも多くの委員が、続けて活動できる委員会づくりが必要だと思えます。

まずは、全委員の声に耳を傾ける大切さ 杉山委員

新しい事業を始める時、反対意見が出ることもあると思います。それを乗り越えることができたヒントは「皆の意見を聴いた」ということです。「意見を受け止めて改善を諮る」この継続が、今の活躍の源であると感じました。「一方的に述べるのではなく、全員が発言できるように心がける」安藤会長の言葉は、事務局職員として、心に響きました。

「もともと委員になりたかった」と目を細め語る安藤会長の姿には、大磯町や委員活動に関わる仲間への愛が感じられました。だからこそ、新たな仲間も安心して活動できる環境になればと、意見

● **仲間と活動するために**
「もともと委員になりたかった」と目を細め語る安藤会長の姿には、大磯町や委員活動に関わる仲間への愛が感じられました。だからこそ、新たな仲間も安心して活動できる環境になればと、意見交換会やアンケート等をこの2年間で実施してきました。しかし、これは、安藤会長一人では叶いません。会長の思いを伝えるだけではなく、委員それぞれの思いを伝え合い、分かち合った積み重ねがあったからこそです。これが、新任委員も含めた全委員とともに築き上げる体制づくりのヒントかもしれません。

交換会やアンケート等をこの2年間で実施してきました。しかし、これは、安藤会長一人では叶いません。会長の思いを伝えるだけではなく、委員それぞれの思いを伝え合い、分かち合った積み重ねがあったからこそです。これが、新任委員も含めた全委員とともに築き上げる体制づくりのヒントかもしれません。



地区担当の委員の顔が分かるようにと作成した自慢のパネルを背景に(右から3番目が安藤会長、2番目が町民児協事務局の片野さん)

活動のヒント・ポイント

地域住民の期待に応える自己変革を目指して
～一斉改選と制度創設 100周年に際して～



桜美林大学
大溝 茂さん

本年は民生委員一斉改選の年であり、来年は民生委員制度創設100周年を迎えます。

今日、社会・経済の変動や生活形態と意識変化等は、生活の貧困化の進行を軸として、世代を問わず「生きづらさ(生きることの困難さ)」が増幅し、民生委員制度の創設当時の社会背景と相通じるものがあるといえます。

地域住民の様々な「生きづらさ(生きることの困難さ)」と「向き合い」「寄り添うこと」が民生委員児童委員活動の原点です。

制度化されたボランティア(委嘱型ボランティア)として、民生委員児童委員活動は、新たな地域住民の動向や必要の変化に応じた具体的活動を創出し今日に至っています。

一斉改選では、民生委員児童委員の未充足や、1期で退任するケースが顕著になっている昨今、大磯町民児協では、新しい住民ニーズや地域課題への対応を可能とする組織の活性化を図っています。

民児協活動が常に地域住民のニーズと期待に応えることを中心的な目標・課題とした活動であるためには、地域や住民生活の変化に応える民児協活動や各民生委員児童委員の具体的な日常活動も変化することが必要です。反面、地域や個々の生活には変えてはならない守るべきこともあります。

「変えるべきことを変えていく《勇気》」と「守るべきこと(変えてはならないこと)を守っていく《力》」を民児協及び民生委員児童委員一人ひとりが育んでいくことが大切ではないでしょうか。

愛知県知多郡阿久比町民児協から綾瀬市民児協への視察研修

愛知県知多半島の真ん中に位置する知多郡阿久比町から、竹内会長以下33名の民生委員児童委員の方々が、綾瀬市民児協へ視察研修に来訪されました。

全国にあまたある民児協の中から、本市を視察に選ばれた理由は、全民児連の『ひろば』（平成23年6月発行）に掲載された本市民児協の或る事例をみて、興味を持たれたとのことでした。

視察研修は、はじめに阿久比町民児協の竹内会長から、来訪の意図についてお話しがあり、本市民児協からは歓迎の意が松本会長より述べられ、双方の委員紹介後、意見交換を行いました。

阿久比町から①阿久比町にはない、要支援者登録制度システムと具体的な活動、②民児協と社協・自治会との活動協力、③主任児童委員の活動など、数々の質問がなされ、約2時間あまりの意見交換でしたが、双方にとって有意義な時間を持つことができました。阿久比町と本市を比較すると、人口や世帯数は1…3ですが、65

民児協の活動や地域交流など、「県民児協だより」で紹介しませんか？
各市町村民児協の通信員または県民児協事務局までご連絡ください！

歳以上の高齢化率、要介護認定率は、ほぼ同じであり、民児協の活動する土壌が似ていると感じました。
また、今年、ほたるサミットを開催し、幻の花「花かつみ」が咲くという優雅な阿久比町ですが、本市も「ほたる」場があり、美しい鳥「カワセミ」などが飛翔する清流があり、豊かな自然環境にも共通点を感じる交流会でした。
綾瀬市民児協通信員 川瀬精康



視察研修の様子

ブロック別会議の開催状況
各ブロックで大規模研修開催

各地域におけるニーズに応じた活動を広げるため、県域の市町村民児協は6つのブロックに分かれ、会議や相互の情報交流、研修等を

行っています。
今回は、各ブロックで開催された大規模研修会を報告します。

ブロック名	日時	内容
横須賀三浦ブロック	平成27年10月9日	格差社会における少子化と児童虐待の現状と対策について 講師:小林正稔氏(県立保健福祉大学教授)
県央ブロック	平成27年11月12日	民生委員児童委員活動の現状と展望について ～民生委員制度創設100周年を前に～ 講師:大溝茂氏(桜美林大学教授)
湘南東ブロック	平成28年1月20日	これからの幸せな最期の迎え方 ～終末期を考えてみませんか～ 講師:石飛幸三氏(世田谷区特別養護老人ホーム芦花ホーム医師)
湘南西ブロック	平成27年10月22日	マイナンバー社会保障・税番号制度について 講師:内嶋順一氏(弁護士)
足柄上ブロック	平成28年2月17日	災害発生時の民生委員児童委員の役割 講師:高橋洋氏(NPO法人災害福祉広域支援ネットワークサングード理事・副代表)
西湘ブロック	平成27年7月17日	少年非行の現状について 講師:宮崎誠氏(小田原少年院長)
	平成27年11月9日	認知症の人も暮らしやすいまちづくり 講師:徳田雄人氏(㈱スマートエイジング代表取締役)

NEWS&インフォメーション

民生委員制度創設 百周年にむけて

平成29年は、民生委員制度百周年を迎えます。これは、民生委員制度の源である岡山県の「濟世顧問制度」ができた大正6年から数えて百年を迎えることにより、全県児連では、この大きな節目を契機として、民生委員児童委員活動の一層の充実と発展に向けて、その活動を広く社会にアピールしていくことをめざしています。

その一環として、キャッチコピーと一体としたシンボルマークを作成しました。各県児協において、さまざまな機会に活用できるように、全県児連ホームページより必要なデータをダウンロードできるようになっています。

県民児協においても、全国の取り組みに協力することに加え、県独自の記念事業を企画するため、実行委員会を設置し、事業内容を協議しています。

一人ひとりの活動の積み重ねに

より、百周年の歴史はこれから先の活動につながっていきます。委員一人ひとりの活動のやりがい、感動を分かち合える機会となるよう目指してまいります。



ハートでできた四つ葉を囲むグリーンのは、人々・地域の暮らしと成長を表し、100年の歴史を表す「100」の文字のオレンジ色が、やさしさとふれあいを意味しています。「これからも地域とともに」というキャッチコピーには、これまで地域とともに歩んできた実績を背景に、これからもずっと地域の方々と共に歩み続けるといふ、民生委員児童委員の想いが込められています。

平成27年度県民児協 の研修会から

◆課題別集中講座(9/8・10/20)

「相手の話に耳を傾ける」「手が伝えたい内容を正しく理解する」ために必要な基本的な技術を、上智社会福祉専門学校専任教員の岩崎雅美さんを講師に迎え、グループワークを中心に行われました。参加者アンケートでは「明日からでも使える具体的な内容だった」「具体的な演習が勉強になった」等、研修で得た知識や技術を今後の活動に役立てたいという感想が数多く寄せられました。



◆市町村会長研修(10/26)

今年度の市町村会長研修は「個別支援上の負担を軽くするために活動しやすい環境づくりにむけて」をテーマに開催しました。

委員活動の中で、最もやりがいを感じる活動でもあり、また、困難な場合には負担ともなる「個別支援活動」について、新任委員などにどのようなサポートを行って

いるか、4つのグループに分かれて、話し合いました。事例研修会や定例会の活用、独自に作成した事例集などの紹介、個々の委員から相談への対応等が話し合われ、学びあう研修となりました。

◆児童委員・主任児童委員

活動推進会議(2/22)

児童委員・主任児童委員活動推進会議の研修テーマは、毎年実行委員会を組織し、研修の持ち方や内容、講師の選定などを検討し、企画・開催しています。

今年度は参加者が主体的に参加できるグループワークの手法も取り入れながら、「児童委員、主任児童委員の心がまえと役割について」明日から私たちが挑戦できることを考えよう」をテーマに開催しました。

講師には元東京

都市大学教授の山岸道子さんを迎え、前半は講義、後半は演習として、児童委員、主任児童委員の役割、関係機関との関係づくり等について話し合い、情報交換しました。



通信員だより

大井町

小千谷市への視察研修

通信員 菅谷 美千江

大井町民児協では、平成27年10月20日、小千谷震災ミュージアム(そなえ館)の施設見学に行きました。

中越大震災から11年経過しましたが、今も記憶に親子生き埋めの映像が鮮明に残っています。

館内には3千人もの避難者が集まった体育館が避難所となった写真が展示され、その足の踏場のない様子にただ驚くばかりでした。

案内のボランティアから「後々の安否確認には日頃からの近所付き合いが大事」という話がありました。

さらに、小千谷市民児協の石坂会長の活動報告では「命を守る優先順位は、まず“自分”」という言葉が印象的でした。命があれば避難者にもできる仕事があると思いました。

大井町では防災訓練を年1回行っていますが、不意の災害にスムーズに対応するのは難しいことでしょう。直面しなければ分からない部分もあると思いますが、協力しながら備えていくことが必要です。

災害がないことを祈りつつ、いろいろ考えさせられた研修でした。



当時の避難所の様子を説明するボランティア

二宮町

地域に根ざした活動

通信員 丹羽 洋子



下校の見守りの様子

現在、民生委員・児童委員47名で活動しています。各々、高齢者部会・障がい者部会・児童部会に属し、部会での研修や勉強会等に参加、研鑽し、町内の施設でデイサービスや就労支援施設(B型)で軽作業の手伝い、子育てサロンでのふれ合い、主任児童委員による各支援施設での支援等をさせて頂いています。

昨年、隣町の大磯町民児協との交流会を実施し、自治会との関わり方や災害時における民生委員の立場の違い等がわかり、新鮮でした。地域に根ざした見守り、「災害時には自分も大切に活動すべき」と通じ合うことができました。

また、「民生委員・児童委員の日」には、町内3つの小学1年生の下校の見守りを実施したり、二宮町や町社協主催の各行事に参加するなど、民生委員・児童委員の啓発に努めています。

個人情報、守秘義務等を踏まえた上で、いかに見守り、関係機関へとつなげることが出来るかは、日頃から地域の方々と笑顔で挨拶し、接することが大事だと思いました。

松田町

HUGで避難者を優しくハグできる避難所運営を目指して!

通信員 吉崎 なつき

もしも、大規模災害発生時、地元の自治会で避難所を開設する立場になった時、殺到する人々や様々な事案にどう立ち向かいますか?

HUG(ハグ:避難所運営ゲーム)は静岡県で開発され、避難所の体育館や教室に見立てた平面図に、様々な事情の避難者や避難所で起こるであろう様々な事が書かれた250枚のカードを可及的速やかに且つ適切に配置していくゲーム型の訓練です。

当民児協では2回目の訓練ですが半数以上が初体験。避難所開設の想定は夕方、雨模様の冬の日曜日、ライフラインは寸断としたなか、カードの読み手が次々読み上げていく内容、例えば、ペット連れで認知症の高齢者、外国人観光客グループ、総理大臣視察の打診、マスコミ対応、仮設トイレの設置場所の選定、車中泊希望者の駐車場の割振り等々、個人では思いもつかない事案の数々に皆、喧々諤々、でも真剣に意見を戦わせ、適切な対処を模索し続けました。濃密で貴重な体験をし、この訓練の大切さを実感しました。



真剣に意見を戦わせる参加者たち